



NPO PTPL “ともいき” 便り No.127

平成 29 年（2017 年）7 月 23 日発行

■大暑（たいしょ） 7 月 23 日から 8 月 6 日までの節気

「大暑」の節気に入ります。大きい暑さと書きますが、いよいよ梅雨も明け、暑さがピークの時季です。

今年の梅雨の特徴として、九州北部地方に見られるように豪雨による多くの犠牲者がでるなど大惨事が起こる一方、関東地方は梅雨という様相はなく、異常なほどに高温多湿の厳しい暑さの連続です。

災害が起こると、いつも感じるのですが、東京や大阪などの大都市では犠牲者が出るような豪雨による災害は非常に稀で、大惨事はなぜか地方でよく起こります。なぜ、同じ日本列島に住む国民にこれほどの差が出てくるのでしょうか？ もっともっと国民の生命と財産を守る国土のあり方を議論する国会に期待したいのですが、どうも今の国会の議論を見ているとこの国の将来が危ぶまれます。

さて、気分を変えて、「大暑」の節気といえば、子どもたちにとっては待ちに待った「夏休み」。いろいろな計画を立てているのですが、今の子どもたちは夏休みといっても、塾通いが日常の中心になっているのではないかと余計な心配もしたくなります。

海や川や山に出かけて自然と目いっぱい触れてほしいと願っています。本来夏休みってこういうものではないでしょうか。でもくれぐれも熱中症対策は忘れずに。

7 月 23 日は「ふみ月・ふみの日」です。「ふみ」を「23」と語呂合わせして「ふみの日」とし、さらに 7 月の和風月名の「ふみ月」を合わせて 7 月 23 日は「ふみ月・ふみの日」となりました。メールや SNS の普及で本当に手紙を書く機会が少なくなりました。手紙を書こうとするとなんか良いことを、気の利いたことを書こうと思いは募るばかりで筆が進まなくなり、結局メールですましてしまいがちです。絵手紙でもしてみようと思いますが、なかなか実行には至りま

せん。日常生活に手紙やはがきを書く習慣づける何か良い方法はないでしょうか？

7月25日は「土用の丑の日」です。もうみなさんご存知でしょうが、一年に土用の丑の日は数回あります。(土用は春夏秋冬年4回あります)

ちなみに今年の土用の丑の日は「1月26日(冬の土用)、4月20日・5月2日(春の土用)、7月25日・8月2日(夏の土用)、10月29日(秋の土用)」と6日あります。

今年の夏の土用の丑の日は2日あります。7月25日を「一の丑」、8月6日を「二の丑」と呼ぶようです。

せっかくなので、各地でウナギを食べる以外に夏の土用の丑の日にまつわる風習をご紹介します。

1. 丑湯

湯田上温泉(新潟県)では、土用の丑の日に「丑湯」を楽しめば、一年間無病息災で過ごせるといわれます

2. 薬狩り

土方歳三の生家が販売していた「石田散薬」では、薬草を摘むのは土用の丑の日のみと決まっていたそうです。「病除け」や「厄除け」のため、土用の丑の日に薬狩りをおこなう地域はほかにもあるそうです。

3. きゅうり加持

暑い夏を乗り切るための祈祷儀式。水分豊富なきゅうりにあやかり、きゅうりに厄災を封じ込めることで、夏場を無事に過ごせるそうです。

きゅうり加持は空海も執り行なった儀式でもあります。

現在は小豆島の大観音、愛媛の永徳寺と梅檀寺、京都の神光院のきゅうり加持が知られています。

きゅうり加持を知り、丑の日にはウナ重と共にウナギときゅうりの酢の物も食して厳しい夏場を乗りきろうかなと思っています。

佐藤 誠 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE事務局)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和。それは日本的なるもの「ジャパネスク」

第3の日本ブーム「ジャパネスク」は自力で!!

明治維新以降、世界で二つの「日本ブーム」と呼べる現象が起こった時期があります。

一つ目は「ジャポニズムといわれた日本ブーム」。明治半ば、フランスを中心に欧州で、日本文化・芸術に対して新鮮な驚きをもって注目された時期。

二つ目は「ジャパンアズ N01 といわれた日本ブーム」。戦後の昭和 50 年代、アメリカを筆頭に世界が日本の高度経済成長に驚嘆、称賛した反面、日本への警戒心が生まれた時期。

そして、現代社会においては、経済至上主義の行き過ぎたグローバル化が急速に進んだ結果、地球規模の温暖化やテロ、所得格差、移民・難民など数々の社会問題が生じました。その反動として欧米を中心に保護主義、自国第一主義の台頭など混沌とした時代となりました。そのような中、いま、世界の人々が日本人の「世界観」「価値観」そして「精神文化」に関心を持ち、注目し始めているのを私は感じています。「日本には、何かがある」「ワンダーランド、日本」世界の人々は感じ始めているのです。

一方、日本独特の世界観、価値観、精神文化を失いつつある日本人があまりにも多くなっている現在、これまで「日本ブーム」のように海外発の他力ではなく、われわれ日本人自身が自力で「日本人としての矜持」を強く取り戻し、再確認、再認識し、自信と誇りを持って謙虚に世界に向けて発信をしていく時期がきているのではないのでしょうか。

今の日本人に不可欠なのは、決して、外圧や一部の「海外かぶれ」の政治家、経済人、知識人、文化人に同調することなく、また、グローバル社会の潮流に身を委ねることなく、他の国にはない、日本ならではの世界観と社会を創り、これを正々堂々と世界に示しつつ、一歩ずつ確実に前進していくことが重要だと考えます。日本人の世界観、価値観、精神文化は地球上の諸民族の心と生活をつなぐ、いわば文化交流のための共通言語になりうるのではないのでしょうか。

●NPO PTPL が提唱する「ジャパネスク時代」の到来!!

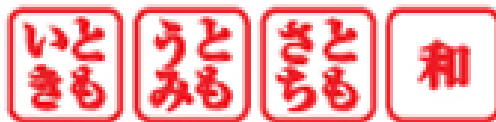
人と自然が共に生きる「ともいき」、共に生み出す「ともうみ」、共に幸せに生きる「ともさち」をわれわれの祖先は大切にしてきました。

「ともいき」「ともうみ」「ともさち」は個々別々のものではなく、密接に関連しつつ、融和、複合しながら、私たち日本人の心の中に存在します。そこに貫かれているのは、大いなる回帰循環する自然のもとにあって、人も生きとし生けるものも共に和む「和」の精神です。それは私たちの季節感やものの見方、感じ方、宗教的心情などの根源であり、日本の誇るべき伝統であり、わが国の文化と精神の真髄です。世界の人々が注目し始めている日本人の世界観、価値観、精神文化とは、つまり NPO PTPL が提唱する「ジャパネスク」そのものなのです。

日本の本質「ともいき」「ともうみ」「ともさち」そして「和」、つまり「ジャパネスク」を思うとき、欧米近代を超えた未来への可能性を強く感じ、これこそ国際的な普遍性を持った次世代の価値観ではないかと思えるのです。

いまこそ、日本の本質、ジャパネスクを世界に伝達、訴求する絶好の時期が来ているのではないのでしょうか。

ジャパネスク



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局便り

- いよいよ暑さのピークを迎えます。皆さま、熱中症対策など、十分な暑さ対策を施して厳しい夏を乗り切られるよう願っています。

大暑の節気を過ぎると、8月7日からは「立秋」の節気です。暑さのピークも立秋まで。これからは秋から、冬に向けて季節が移っていきます。こう思うとなんとなく気分だけでも涼しくなりませんか？

- 是非、NPO PTPL が企画制作運営するサイト・FB をご覧ください。

「NPO PTPL 公式ホームページ」：<http://www.plantatree.gr.jp/>

「ジャパネスク」：<http://www.japanesque.tokyo/>

「ともいき暦」：<http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>

「ともいき ぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと山」：<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」

<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

- 会員募集のご案内

NPO 活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

- NPO PTPL は「ジャパネスク運動」推進中です。

ぜひ、「ジャパネスク」サイトのメニューのひとつの「ジャパネスク語り」

(<http://www.japanesque.tokyo/katari.html>) をお読みください。

NPO PLANT A TREE PALNT LOVE 事務局

〒141-0022 東京都品川区東五反田 2-7-11 東都ビル 201 号

電話：03-6432-5911 FAX：03-6432-5912

Email：info@ptpl.or.jp